

事業実績報告書

様式 2
(2020年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-28	講座名	都市近郊田で、無農薬のコメ作り、生きもの豊かな田んぼ作り
記載日	11月21日	団体名・企業名	NPO法人日進野菜塾

〈講座全体の概要〉(300字程度)

田んぼは里地里山の中核的存在であり、田なくして「里地里山」はない。しかし今日、米の消費が減り、田んぼの持つ生物多様性と意義、関心が失われてきている。そもそも体験できる場がなくなっている。そのため本講座は、①田んぼで栽培プロセスの体験の機会を用意 ②生物多様性の豊かな恵み、無農薬・有機栽培方式の重要性を実地で学ぶこととした。

全体で10回を組み、そのうち草取り参加者を増やすため、参加回数に応じて、収穫米を渡す仕組みとした。参加者は「自分の田んぼ」という意識を持ち、最後まで熱心に取り組んでくれた。来年も参加したいという声も多く聞かれた。



※写真1の説明

草取りは竹製の「田こすり器」も使い、初期抑草に取り組んだ。

※写真2の説明

ハザに天日干ししたイネを脱穀機にかけ、もみを取る。

〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

無農薬栽培米の最大の課題は、いかに雑草を防ぐかにある。そのためには継続して草取りに参加してもらう必要がある。今回参加回数に応じ、思い切った量の収穫米をお渡しする仕組みを導入。その結果、草は抑えられ、参加者の意欲、参加率とも大幅アップ。米の収穫量も増え、望ましいこととなった。この仕組みを今後とも継続したい。「こうすれば無農薬栽培米」方式を教訓化して、一般に開示、多くの人、団体が取り組めるようにしたい。

〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3~5点、計350字程度)

〇お米づくりのダイジェストを体験できたうえに、お米や昆虫の話など楽しかった。泥の肌触りとか気持ちよかった。〇米ができるまでの様々な体験ができてすごく勉強になった。スタッフのみなさんもやさしく対応していただけて、参加しやすかった。〇米を作ることの難しさ、食べるだけではわからないことをたくさん知った。娘にとってもいい経験になった。また参加したい。

〇お米づくりの体験がしっかりできた。無農薬のお米もいただくことができた。〇一つ一つ丁寧に教えてくださり、学ぶことと実践がとても楽しかった。毎回入るたび田んぼの景色が変わっていくのが楽しかった。